



自動車リサイクル促進センター 平成30年度事業計画を策定 循環型社会の構築に向け、 自動車リサイクルの一層の推進を通じて社会に貢献

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区芝大門1-1-30日本自動車会館、代表理事：郡嶋孝）は、平成30年度事業計画を策定しました。その事業計画は次のURLをご参照ください。

（平成30年度事業計画書）

<https://www.jarc.or.jp/foundation/financial-data/report/>

この事業計画において、定常的な指定法人業務の実施に加え、以下のような年度特有の取組も積極的に行っていきます。



<一例>

1. 大規模災害発生時の被災自動車の処理円滑化に役立つ情報を地方公共団体に提供

災害発生時の地方公共団体の対応の円滑化に向けて、被災自動車の処理円滑化に資する手引書・事例集等による情報提供・啓発などの支援に取り組めます。

2. 不法投棄・不適正保管事案の解消に役立つ研修を地方公共団体に向けて実施

全国8ブロックで実施する自治体担当者基礎知識研修などを通じて、地方公共団体担当者に不法投棄・不適正保管事案解消に向けた知見を提供します。

3. 全国各地域でクルマのリサイクルの情報を発信、小学生の環境教育に役立つ情報を発信

ユーザーとのコミュニケーションの回数を増やし、効果的にメディアを活用しながら、“点”での取組を“面”への取組へと活動の幅を広げ、質の高い情報を提供します。

以上

➤ **自動車リサイクルシステムについて**

国内では年間約 310 万台（2016 年度）の使用済自動車が発生し、2005 年 1 月に発足した自動車リサイクルシステムのもと、自動車メーカーや関連事業者などの自動車リサイクルの関係者が適正なリサイクルの取組を進めた結果、リサイクル実効率 99%（車両重量ベース）を達成。

クルマはこうやってリサイクルされるんです

ユーザーはクルマを買うときリサイクル料金を支払います。

ながく大切に乘った愛車もいつかは使わなくなります。

ユーザーが使わなくなったクルマを引取業者に引き渡します。

クルマの99%がリサイクル!

金属を原材料に戻してリサイクルします。残ったプラスチックやゴムなども原材料に戻したり熱源として再利用します。

クルマのボディをシュレッダー機で破砕します。

使える部品を取り外して中古部品として使います。

フロン類を抜き取って破壊します。エアバッグ類を安全に取り外します。

リサイクル料金を使って処理する3物品について

(ユーザーが支払ったリサイクル料金で特別に管理する物品)

シュレッダーダスト

クルマから有用な部品や金属資源などを回収した後のクズ(プラスチックやゴムなど)をシュレッダーダストといいます。シュレッダーダストを更に原材料に戻したり、熱源として再利用します。

フロン類

カーエアコンに使用されるフロン類は、オゾン層破壊や地球温暖化など環境によくない影響があるので大気放出を防ぐ必要があります。フロン類を回収した後、高熱で燃やして無害化します。

エアバッグ類

エアバッグ類には爆発性のあるガス発生剤が使われているので、クルマのリサイクルでは安全性を確保する必要があります。エアバッグ類を回収した後、金属部分を原材料に戻してリサイクルします。

➤ **公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）について**

自動車のリサイクル及び適正処理の促進に関する各種事業を行うことにより、資源の有効な利用の向上及び環境の保全に貢献することを目的とする公益法人。

所在地	: 〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館 11 階
設立	: 2000 年（平成 12 年）11 月 22 日
理事長	: 郡 島 孝
自動車リサイクル法指定法人業務の主務官庁	: 経済産業省、環境省
URL	http://www.jarc.or.jp/

➤ **お問い合わせ先：自動車リサイクルシステム コンタクトセンター**

☎ 050-3786-7755 平日 9:00~18:00（土日祝日・年末年始を除く）

（メディア関係者様のお問い合わせ先）

公益財団法人自動車リサイクル促進センター
 広報・理解活動推進室
 電話 : 03-5733-7144